

令和元年度決算 12年連続の黒字

皆さんが納めた税金は、どのように使われたのでしょうか。町の会計は、一般会計、特別会計（4会計）、企業会計（2会計）に分かれています。一般会計を中心に令和元年度の決算内容をお知らせします。

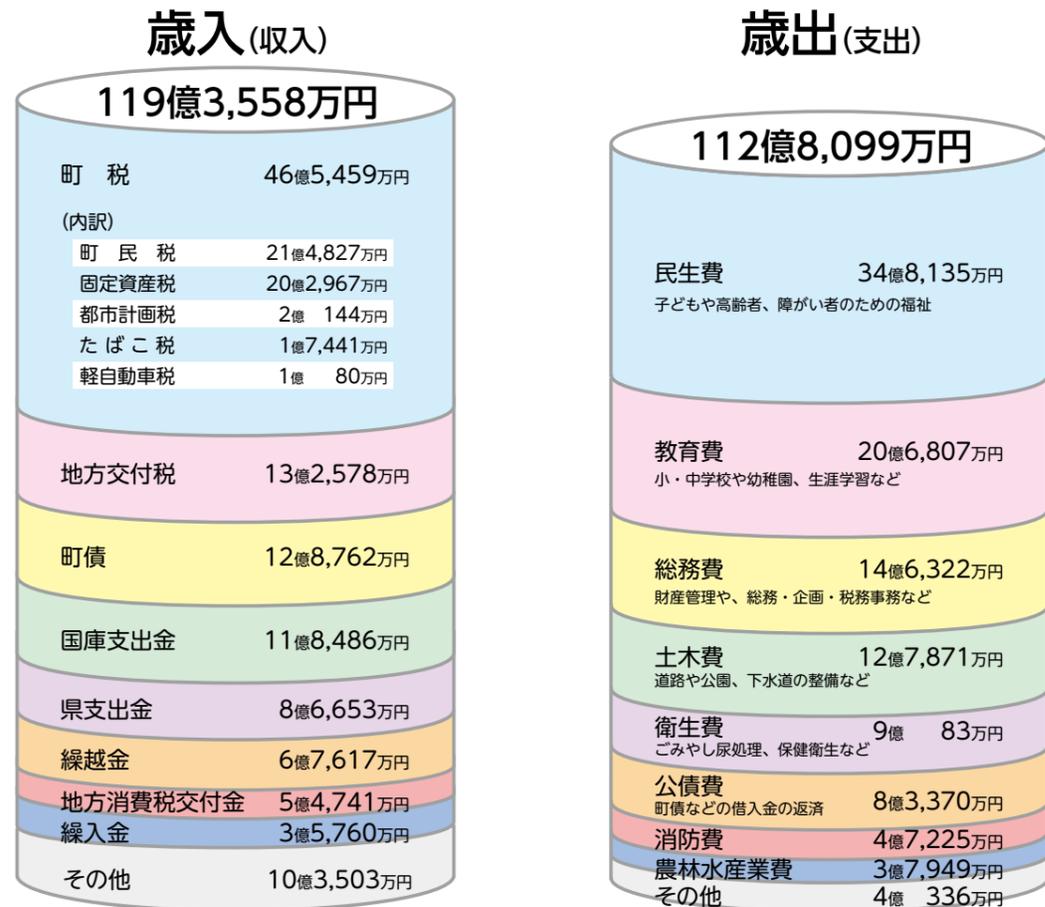
一般会計

私たちの生活に関わりが深く、福祉、教育、土木など町の基本的なサービスを行うのが一般会計です。

令和元年度の一般会計の収入は、119億3,558万円で前年度より9.3%増加し、支出は112億8,099万円で前年度より10.2%増加しました。

収入と支出の差額は、6億5,459万円ですが、ここから翌年度へ繰り越した事業に必要な金額6,402万円を差し引いた実質収支は5億9,057万円の黒字となります。

また、前年度繰越金や財政調整基金への積立てなどを除いた当該年度における実質的な収支を表す実質単年度収支は1億9,257万円となり、12年連続の黒字となっています。



※表示単位未満を四捨五入しており、積み上げと一致しない場合があります。

特別会計及び企業会計

特定の収入で特定の事業を行う特別会計や、民間企業と同じような経理をする企業会計の決算状況です。

区分	歳入	歳出
特別会計	65億7,674万円	64億7,932万円
国民健康保険	38億8,772万円	38億6,395万円
後期高齢者医療	4億5,586万円	4億3,998万円
介護保険	22億1,268万円	21億5,489万円
介護サービス	2,049万円	2,049万円
水道事業会計	6億3,865万円	5億3,077万円
資本的収入及び支出 ※1	1億2,359万円	4億3,729万円
下水道事業会計	14億865万円	11億9,770万円
資本的収入及び支出 ※2	5億7,385万円	11億3,342万円

※表示単位未満を四捨五入しており、積み上げと一致しない場合があります。

※1 水道事業会計の資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、当年度分損益勘定留保資金及び建設改良積立金で補てんしました。

※2 下水道事業会計の資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、当年度分損益勘定留保資金及び当年度分利益剰余金で補てんしました。

令和元年度の主な実績

令和元年度は様々な事業を実施しましたが、主に次のようなことにお金を使いました。

民生費の主なもの



※完成イメージ図

子育て支援拠点施設等整備事業 58,983千円
子育て支援機能と福祉会館機能を備えた複合施設の建設用地を取得し、実施設計等を実施しました。令和2年度に施設の建設を行っています。

教育費の主なもの



学校園空調設備設置事業 848,923千円
子どもたちが熱中症を気にせず、安心して学習できるよう幼稚園及び小中学校の全ての普通教室などにエアコンを設置しました。



放課後児童クラブ管理運営事業 46,321千円
子どもたちのニーズに合った生活の場を確保し、児童の健全な育成を図るため、新たに天満第3放課後児童クラブを建設しました。

土木費の主なもの



町道維持補修事業 52,605千円
町道や生活道路などの路面維持や路肩構造物を計画的に修繕しています。令和元年度は主に町道十七丁・中場線の道路工事を実施しました。

衛生費の主なもの



※完成イメージ図

広域ごみ処理事業 138,535千円
ごみ処理の効率化のため、加古川市、高砂市、播磨町と共同で建設する広域ごみ処理施設にかかる負担金を支払いました。

財政健全化の指標

財政健全化法により自治体には、財政の健全性を表す指標の公表義務があります。早期健全化基準を超えると自主的な改善が義務付けられる「財政健全化団体」となります。

令和元年度決算に基づく財政指標は、いずれの指標も基準をクリアしており良好です。

いずれの指標も基準をクリアしており良好です。

指標	比率	早期健全化基準
実質赤字比率	—(※1)	14.12%
連結実質赤字比率	—(※1)	19.12%
実質公債費比率	4.6%	25.0%
将来負担比率	—(※2)	350.0%
資金不足比率	—(※3)	20.0% (経営健全化基準)

※1 会計に赤字がないため、比率は算定されません。

※2 借入金残高などの将来負担額を基金残高などが上回ったため、比率は算定されません。

※3 会計に資金不足がないため、比率は算定されません。